

## ■若手に読んでもらいたい本

上垣外正己のおすすめ  
名古屋大学大学院工学研究科 教授

分野：伝記、工業  
書籍名：劇画「トヨタ喜一郎」復刻版  
著者名：木本正次、影丸譲也  
出版社：トヨタ産業技術記念館  
出版年：1994年  
価格：500円（税別）

先日、子供達と一緒にトヨタ産業技術記念館を訪れ<sup>(S)</sup>、手にした本を紹介します。

この本は劇画です。でも、侮らないでください。トヨタ自動車の創業者である豊田喜一郎の国産自動車事業を興すという熱い思いと、そのための度重なる苦労が、力強い画風と詳しい説明文とともに語られる真面目な劇画です。豊田喜一郎は、父・佐吉が興し軌道に乗った織機産業を受け継ぐことに甘んぜず、当時の欧米に比べはるかに遅れていた自動車産業を日本で興すことにすべてを懸けます。そのような一途な思いと行動に魅入られて、一気に読んでしまいます。新しい産業を興すということは、並大抵の努力では成し得ないということを認識するとともに、大きな勇気を与えてくれます。

是非、これからの日本の科学・産業の担い手になる若い方達に読んでいただきたいと思います。同時に、豊田喜一郎は、創造と研究を通じたモノづくりに賭けており、

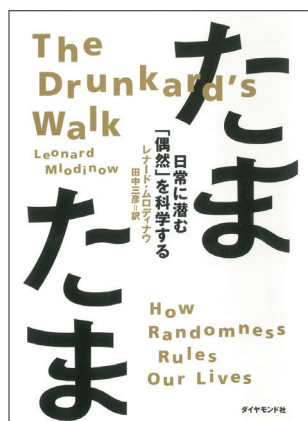
分野は違うと言えども、一研究者としてその姿勢が大変ためになる本だと思います。

この本は、名古屋駅の少し北にある上記記念館で購入できます。ここには、自動車に加え織機に関連する展示もあり、私たちになじみ深い繊維の歴史や製造の工程などを、実演を通して触れることができ、高分子科学者・技術者としても良い勉強になります。また、ロビーに展示されている環状織機が動き織り上げるさまは、もはや芸術の域に達しています。

ご興味のある方は、名古屋を訪れた折に、是非足を運ばれてはいかがでしょうか。最後は本の紹介でなくなってしまうました。



## ■私の役に立った本

中嶋 健のおすすめ  
東北大学原子分子材料科学高等研究機構 准教授

分野：科学  
書籍名：たまたま 日常に潜む「偶然」を科学する  
著者名：レナード・ムロディナウ  
出版社：ダイヤモンド社  
出版年：2009年  
価格：2,000円（税別）

乱読が趣味で、読んだ本の dog ear をブログで公開しています（「謎犬の耳」で検索すると見つかります）。今回は、その中から「たまたま 日常に潜む『偶然』を科学する」を選びました。スタートレックの脚本を手がけたこともあるというレナード・ムロディナウによる本書の原題は「Drunkard's Walk」。高分子の専門家だと「さては」と思うキーワードですが、高分子には何の関係もありません。その代わりに、「日常に潜む」確率論がてんこ盛りなのです。

たとえば「褒めて伸びるタイプの誤謬」を「平均回帰」をキーワードに解き明かします。「可用性バイアス」や有名な「モンティ・ホール問題」も登場します。時として難解に感じる「ベイズ理論」も夫の浮気を気にする妻の推理という、より魅力的(?)な話題で置き換えられます。ちなみにこの章のタイトルが「あなたが死ぬ確率は1000分の999!」。何のことだと興味をもたれ

た方は是非本書を手にとってみてください。

「パンを100個焼くでしょう。その都度、重さ1000グラムのパンを一個作るためのレシピに従うとする。しかし偶然により、加える小麦粉や牛乳がときどきほんの少し多かたり少なかつたりすることがあるだろうし……（中略）考えられる無数の原因の一つ一つが、パンの重さを数グラム増やしたり減らしたりするとすれば……」

パン屋の不正を暴くために、毎日パン屋に通ったポアンカレの逸話とともに紹介されるこの文章、何のための説明かは皆さんもおわかりでしょう。このように数式なしで確率論がスルスル頭の中に入ってくる。本書の醍醐味はそこにあると思います。



\*<sup>(S)</sup>は、e! 高分子の Supporting Information にハイパーリンクされています。